

エンパワーするNGO



100周年です。YWCA

2007年2月1日

厚生労働大臣

柳沢伯夫様

日本YWCA

会長 石井摩耶子

総幹事 川端 国世



柳沢伯夫厚生労働大臣の女性蔑視発言に対する抗議と辞任を求める要望書

日本YWCAは世界YWCAに加盟する約120カ国の仲間と共に、「女性に対する暴力」に反対する取り組みを行っています。特に日本では各地域YWCAや女性団体と協力して、「女性に対する暴力」は人権問題であることを確認しつつ、「女性の人権意識」を日本社会に根付かせる活動をしています。

1月27日松江市における自民党県議の集会で、柳沢伯夫厚生労働大臣が少子化問題に触れた際、「15～50歳の女性の数は決まっている。産む機械、装置の数は決まっているから、あとは一人頭でがんばってもらうしかない」と発言したことを報道で知り、強い憤りを感じています。

厚生労働省の最高責任者である大臣の発言は、厚生労働省の施策の大きな柱である「子どもを生み育てることに喜びを感じることができる社会を目指して」環境整備を行うべき政府の役割を棚上げにして、少子化の問題を女性に責任転嫁しています。しかも女性を機械、装置と例えたことは女性を人間としてではなく物として考えていることの表れであり、女性の人権を全く無視したものです。政府による安易な出産奨励ではなく、女性自らの意思で子どもを産む権利を明記した男女共同参画社会基本法にある「女性の性と生殖の自己決定権」を尊重する姿勢も欠落していると考えます。

1月29日に発足した「子どもと家族を応援する日本重点戦略会議」には柳沢厚生労働大臣もメンバーとなっています。女性蔑視の発言をした直後の大臣を会議の構成員にしたことに危惧を覚え、この会議を根本的に見直すべきであると考えます。

私たち日本YWCAは、柳沢伯夫厚生労働大臣の女性の尊厳を踏みにじる発言に深い憤りを覚えて抗議すると共に、政治家が自分の発言に対して責任をとることは当然であると考え、柳沢伯夫厚生労働大臣の辞任を要望します。

以上